

支えあいが育む・地域の和

ふれあい馬宮

2016年 9月号
(通巻 第43号)

発行者 会長 岡田 悟
馬宮地区社会福祉協議会
所在地 さいたま市西区
西遊馬533-1
TEL&FAX 048-626-2766
ホームページアドレス
<http://mamiya-shakyo.com/>

災害対策

各地区の防災訓練風景



特集

備えあれば憂いなし

地域で防災を考えマップをつくらう

地区別敬老会・日程・内容のお知らせ

自治会名	日程	内容
飯田新田	9/25	囃子・舞踊・カラオケ・食事会
塚本	9/25	囃子・カラオケ・マリンバ演奏
湯木	10/10	ビンゴゲーム・バーベキュー
馬宮団地	9/19	食事会・演芸
二ツ宮上区	9/11	二ツ宮上区と東区合同 フラダンス・ギター演奏
二ツ宮東区	9/11	
二ツ宮中区	9/19	茶会・記念品贈呈
二ツ宮下区		記念品贈呈
二ツ宮南区	9/11	歌謡ショー・会食
宿東間	9/15	食事会・音楽演奏会他
土屋大宮ハイツ	9/19	食事会
土屋	9/19	囃子・大正琴・歌謡ショー・民謡
本村	10/2	健康アドバイス・食事会・カラオケ
上サ	9/19	民謡・スカッドボール他
仲野	10/9	ビンゴゲーム・歌他
指扇住宅	9/19	食事会・ペットボウリング
西遊馬団地	9/11	食事会・演奏会
高木	9/15	食事会・カラオケ
プラザ	9/15	コンサート・記念品贈呈

敬老会

今年も元気に和気あいあい

敬老会が地区別に開催されることになってから今回で8回目となる。各地区とも少ない予算のなか、参加者に楽しい一時を過ごしていただけるよう出し物の工夫に余念がない。今年の馬宮地区敬老対象者2千273人の皆様、おめでとうございます。益々お元気に人生を楽しめますよう祈念致します。

健康教室開催

6月4日コミュニティセンター

にて第9回健康教室を開催。総勢160名以上の参加で今年も大盛況。Pボウリング大会では馬宮・土屋両中学生の応援が場を盛り上げた。



お知らせ

第6回
絆コンサート・イン まみや
入場無料
(コミュニティ目的ホール)
12月3日(土)
開場 午後1時～
開演 午後1時30分～
出演者は調整中

ご存知?

緊急時見守り・安否
確認対処方法は?

▼ひとり暮らし高齢者等緊急通報・相談事業：市内在宅65歳以上の方で慢性疾患で常時注意を要する方に24時間体制で不安の相談に応じます。希望者には定期的に電話による安否確認を行います。▼徘徊高齢者等探索サービス事業：本人と介護する方は市内在住で徘徊のおそれのある方が外出時に居場所を知らせる小型端末機をお貸しします。家族がセンターへ電話依頼することにより通信回線を利用してその方の現在位置を探索してお知らせします。▼徘徊見守りSOSネットワーク事業：市内在住で徘徊のおそれのある方を家族等が本人情報を事前登録し、行方不明時に情報

報を共有し、できるだけ早く発見し保護するためのネットワークシステム(さいたま市及びネットワークに登録した介護保険事業者等)●詳細は西区高齢介護課 ☎620-2667 ▼緊急時連絡システム事業：在宅の重度身体障害者が急病・事故などの緊急時にボタンひとつで通報できるペンダント型発信機と緊急通報電話機を設置●西区支援課 ☎620-2662 ▼民間業者による緊急通報サービス事業●警備保障会社●電気ポット会社●その他、多業界が安否、見守りに参入しています。子供から高齢者の介護の有無に関わらず様々なサービスを有料で選択できます。(民間業者には、ご自身や家族等で各企業に直接問い合わせ下さい)

編集後記

■「ふれあい馬宮」が二つ折りになり2回目の発行です。■この号は9月発行ということで自主防災、地域の防災の話題を中心に取上げてみました。■台風災害、地震災害などに関するイベントも各地で開かれています。被害に対する日頃の心構え、ご近所さんとの普段からのコミュニケーション作りを大切に考えていきたいものです。

明日は我が身！

地域で防災を考える

今年4月の熊本地震、8月の台風、昨年の常総豪雨。ここ近年、いつになく、これまで経験したことのない地震や集中豪雨に見舞われている。本紙ではこれまでも何度か防災を扱ってきたが、今号では要援護者と荒川領域に広く位置する馬宮地区として特に洪水に対する備えを中心に考える。

気象情報と避難情報に注意

〈気象情報〉

〇〇注意報・〇〇警報・〇〇特別警報があるが、〇〇特別警報が発令されたら、これはこれまでにない危険が迫っているという事を知らせているので、直ちに身を守る行動を取る

〈避難情報〉

避難準備情報：要援護者等、避難に時間を要する方は避難行動を開始する。

避難勧告：要援護者は避難完了。他の方は避難開始をする。

注・常総豪雨時は、さいたま市西区の一部に発令された。

避難指示：「危険です。直ちに避難してください」との情報。要援護者は勿論、その他の住民全て避難が必要。すぐに避難できない場合は我が身を守る行動を起こす。

大雨・洪水の場合は地震と違い事前の情報が比較的入手可能なので対応もしやすい。しかし、ゲリラ豪雨のような時は、短時間で予想を超える雨量に達することもあるので、特に要援護者は早めの対応が必要となる。

要援護者Ⅱ自分では避難することが難しく、周りの人の手助けが必要な人

- ①乳幼児（6歳以下）
- ②高齢で寝たきり・認知症
- ③心身障害者
- ④傷病者
- ⑤外国人居住者や旅行者

援護者Ⅱ要援護者の手助けをする人

要援護者と援護者の関係

- ①両者は日頃から人間関係を築いておく
- ②要援護者の立場になって情報収集や避難の支援をする

さいたま市では避難情報を防災

行政無線・テレビ・ラジオ・広報車・ウェブサイト等で発信するので、上手に活用してほしい。

平常時より地域指定の避難所が何処なのか、近隣の地形や安全な高い建物のある場所等を把握しておくこと、風雨の強い時や夜間の避難を考慮しておくことが、いざという時に最適な避難方法を選択できることにつながる。

要支援者マップ作りを学ぶ

馬宮地区合同研修会

恒例の合同研修会。今年は自治会や民生委員に対し、平成27年に行政から提供された「避難行動要支援者名簿」を災害時、有効的な支援につなげる活用方法はないかと6月、既に取り組みを始めている長野県諏訪市へ視察に赴いた。諏訪市は人口5万人、高齢化率は馬宮地区よりやや低い29%。

市の福祉課が支援の要請・同意のもとに作成した要援護者名簿は、地区にも配布され、民生委員が年一回訪問して更新・変更を行っている。年間をとおし、行政・市社協の事業推進に伴う各種調査協力で、見守りや支援・実態把握が来ていていると感じた。また、自治会・住民自治協議会・ボランティア団体・民生委員・地区社協や市社協・

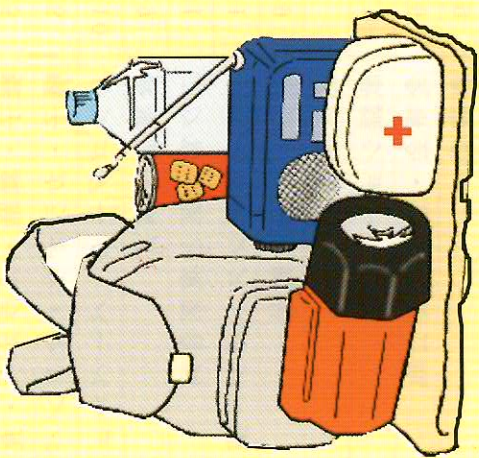
住民等による住民支え合いマップづくりが推進されていて、課題整理にも役立っている。マップには、平常時での困りごとや悩みごと相談者・声掛け見守り希望者等が記入されていて、支援者は地域の住民だ。区長・校長・民生委員・PTA・少年援護員が参画した月1〜2回開催される支え合い推進委員会は情報開示をして、支え合いに協力を仰いでいる。推進委員は出来るだけ長くやれる人、永続委員を希望している。要援護者マップが、日常顔の見える地域づくりに一役かっているのは間違いない。地域で情報を上手に共有・活用する住民同士の支え合いこそが、災害時の支援にもつながることになる。



諏訪市の発表を傾聴する研修会

災害時に備え 日頃から

必需品を準備しておきましょう



尚、詳細は市の防災課へ
電話 048-829-1126

- 「非常時持ち出し品」
災害時に避難する際、最初に持ち出すもの
- 非常食…乾パン、缶詰、粉ミルク、水（ペットボトル）など
 - 救急医薬品…常備薬、傷薬、ばんそうこう、風邪薬、胃腸薬 など
 - 貴重品…現金、通帳、健康保険証、印鑑 など
 - その他…携帯電話、懐中電灯、予備の電池、衣類、紙おむつ、生理用品 など
- 「備蓄品」
災害復旧までの間、生活できるように準備するもの（最低5日分）
- 飲料水…1人1日30が目安（ペットボトルなど）
 - 生活用水…ふろ、ポリタンクなどにくみおきましょ
 - 食糧…米（レトルト食品、アルファアミ）、缶詰やレトルト食品のおかず、カップ麺 など
 - 菓子類…チョコレート、あめ、梅干し など
 - その他…簡易トイレ、使い捨てカイロ、キット用ラップ、洗面用具、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、ヘルメット、カセットコンロ、予備ボンベ、固形燃料 など

上サ自主防災組織の活動

防災会本部長 太刀一己

A：役員の選出方法について

自治会長が本部長を兼務し、副自治会長が副本部長を兼務、総務班、消火班など六班を自治会

の各部長がリーダーとして、本部

を形成している。自治会の班

長・副班長には、連絡係を担当し

て頂いている。

B：年間行事

毎年4月の総



西遊馬団地自主防災組織の活動

自主防災会々長 寺田 正

A：役員の選出方法について

会長は専任で自主防災会を担当し、自治会役員・役員経験者・管理組合員で組織。事務局は自治会役員が兼務、正副班長は自治会員が務める。

B：年間行事予定

毎年、定期総会前の3月に防災会議を開き、年間の活動計画決定し、防災訓練、防災備品購入等も話し合う。

C：災害時要援護者対策

民生児童委員・防災会長・西団有志のケア・ネットワークの委員と連携し、要介護者・要支援者の名簿を作成している。

会で前年の活動報告を行うと共に、新年度の防災訓練の日程などを説明する。具体的内容は、その後の部長会・班長会で機材・水・パン等の購入と共に説明報告する。

C：災害要援護者対策

民生児童委員と連携し、要援護者リストと情報を共有している。

D：わが自主防災組織の特徴

防災訓練にきた子供達にお菓子を配布するなど、子供の時から防災活動に参加して頂き、防災意識を高めて頂くよう心掛けており、参加者は増加傾向にある。西区避難所訓練には、本部役員が出席し、不足人員については、各班の班長の6〜7名にも順番で参加頂いている。

災害時には、各階級の自治会役員が声掛けをして安否確認する。

3者が協力して要支援の対応を強化して行く方針です。

D：わが自主防災会の特徴

任期が2年なので、会長が退任すると副会長が会長に、役員から副会長を選び、それぞれの任務に当たる。自治会員と共に顔の見える防災活動ができる、老若男女全員参加型の組織作りを目指しています。

